

HopStepJump

<https://toyono-jinjikyo.com/>

9

児童生徒理解研修①

～生徒指導について～

11月に実施した初任者研修・新規採用者研修第11回は、生徒指導について、豊能町教育委員会義務教育課の進藤哲広副主幹にオンラインで講義をしていただきました。講義・演習、受講者同士の交流を通じて研修開始時の「生徒指導」のイメージが変容するなど、改めて生徒指導の在り方や、指導者としての役割、チーム学校としての連携を確認する機会となりました。また、教職員間での日常的なコミュニケーションや情報共有（報告・連絡・相談）の重要性も感じることができました。

～振り返りシートより～

- 生徒指導とは、子どもの性格を理解し、子どもに寄り添うことが大切だと学びました。一人ひとり思いや考えが違うのは当然で、それを理解し、その子にあった声かけや手立てを考えていきたいと思えます。
- 「チーム学校」や「組織的な対応」という言葉はよく耳にしますが、なぜそれが必要とされているのかということ改めて考える機会になりました。今後も生徒の少しの変化に気づいた時は、どんなに小さな変化でも先輩教員に相談をして、早期発見に努めていきたいと考えます。
- 事務職員だから生徒指導に関わらないし関係ないではなく、学校がチームとして動いていくために相互理解を深める一助になれるよう行動していこうと思えました。
- 発達支持的生徒指導の中であった、「時には子どもたちの逃げ場を作っているか」という言葉にすごくドキッとさせられました。正しいことを伝えることで必死になっていて、子どもたちの気持ちを受け止めるということが足りていなかったなと思えました。
- 子どもたちが安心して学校生活を送れるような風土づくりをするために、日々の挨拶や声かけ、授業や行事等を通して、支援者として今までとは違った角度から子どもたちを見取ってきたいと思えます。
- グループ交流では、自分では思いつかなかった意見がいくつも出ました。今回の研修のねらいの一つに「課題を解決するために相談することができる」とあったが、まさにグループ交流を通して、チームに相談することで自分とは違う視点から物事を考えられることを実感できました。

その日の研修で、すべての内容を理解できるわけではありません。むしろ、研修をきっかけに自分の実践を振り返ったり、現状や課題を見つめ直したりする中で、さらなる課題や疑問が生まれることもあります。研修内容を話題にして校内の先輩に聞いてみたり自分で調べてみたりすることで、学んだことを深め、それを普段の実践に還していけると思えます。感じたことや考えたことを研修のときだけに留めることなく、その後はどうつなげていけるか、「学び続ける教職員」という姿を、ぜひ意識して体現してほしいです。



講義の中でも触れた「生徒指導提要」は、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し、今日的な課題に対応していくため、昨年度12年ぶりに改訂が行われ、公表されました。

(※改訂版は、デジタルテキストとして文部科学省のホームページに公表され、関連情報に容易にアクセスできるように考慮されています。また、デジタルテキストの活用ガイドも掲載しています。)

【生徒指導提要（改訂版）】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/setoshidou/1404008_00001.htm

